

# 岐阜農林事務所の普及活動状況

平成30年10月25日現在

## 今月の重点活動

### ■だいこん 祝だいこんは種開始

昨年産の祝だいこんは、は種後に2週続いた台風等の影響もあって、土寄せやマルチ・トンネル被覆など大変苦労し、出荷歩留りは52.1%と極めて厳しい状況になった。今年産は、10月12日からは種が始まり、15日に終了した。

祝だいこんの生産者が減るなかで、今年産から新規に取り組んだ生産者が2名増えたことから、全体では3名減の31名が確保でき、作付予定面積は3.49ha（平成29年産は3.78ha）が見込まれている。

今後、農業普及課では、発芽や生育状況などの確認と、は種1ヶ月後、2ヶ月後に生育調査を実施し、調査結果に基づく技術情報を提供し、出荷歩留りの向上による安定生産を支援する。



【祝だいこんは種風景】

（園芸産地支援第一係・高橋幸蔵）

## 多様な担い手づくり

### ■ブロッコリー ブロッコリー塾開催

10月17日、ブロッコリー生産者ほ場において、第3回のブロッコリー塾が開催された。今回は、定植後の管理として、追肥と土寄せ作業の実習を行った。実習の際には、ほ場の様子を観察して質問するなど、熱心に取り組む様子が見られた。

ブロッコリー塾は、全4回の開催を計画しており、次回は収穫、調整等について実習を行う予定である。農業普及課では、引き続きブロッコリー生産者の確保に向けて支援を行う。



【ブロッコリー塾の様子】

（地域支援第一係・鈴木郁子）

### ■えだまめ えだまめ塾開催

10月16日、JAぎふ曾我屋選果場において、塾生4名を対象に、農業普及課とJAぎふが連携し、第4回えだまめ塾を開催した。今回は、これまで参加して感じたことや次年度の栽培に向けて意見交換を行った。塾生の内2名は、次年度も直売所出荷に向けてえだまめ栽培に取り組む予定である。

今後も、農業普及課では関係機関と連携し、えだまめ塾の参加をきっかけとして、新規栽培者の確保・育成に向けて支援を行っていく。



【えだまめ塾の様子】

（園芸産地支援第一係・川部 知）

## 売れるブランドづくり

### ■秋かぶ 出荷目揃え会開催

各務原市園芸振興会玉かぶ部会では、10月5日に、部会長、JA担当者が関係市場（名古屋本場・北部、岐阜の3市場）を訪問し、販売方針等について協議したうえで、10月9日に、JAぎふ各務原集荷予冷施設において、出荷目揃え会を開催した。

生産者21名、市場、全農岐阜、JA鵜沼支店、当該施設の各担当者が出席し、出荷に関する説明・確認等が行われた。台風24、25号による他産地の塩害被害もあり、市場からは出荷への期待感が伺え、量販店での売り場確保に向けて、出荷当初のB品、2L品出荷についての呼びかけもあった。農業普及課から、今年の気象・生育状況を踏まえた今後の栽培管理上の留意点等について説明し、出席者相互に現物見本を確認した。

農業普及課では、にんじんととの複合経営品目である秋かぶの高品質・安定生産に向け、今後も支援を継続する。



【出荷目揃え会の様子】

（地域支援第二係・近藤 徹）

## ■桑の木豆 出荷開始

山県市旧美山地区の桑の木豆生産クラブでは、会員25名が「飛騨美濃伝統野菜」桑の木豆を栽培している。

莢が色づき、10月中旬から収穫が始まった。今年は、播種期に連続する降雨、その後の高温、干ばつによる生育の遅延、台風の強風による蔓や株の傷みにより、平年に比べ収穫開始が2週間程度遅れ、着果量も少ない状況である。

農業普及課では、植え付け前、収穫前の講習会、巡回指導を通して、高品質出荷へ向けた支援を行っている。



【桑の木豆の収穫作業】  
(地域支援第三係・宮木英有)

## ■カキ 早秋・太秋・早生富有出荷開始、富有出荷目揃え会開催

10月1日から、早生品種「早秋」「太秋」、10月12日から、中生品種「早生富有」の収穫・出荷が各産地で始まり、出荷目揃え会や市場との情報交換会が開催されるなど、各産地の活動もいよいよ本格化している。

本年は、夏期の高温・干ばつによる日焼け果の発生や、9月以降の度重なる台風によるキズ果の発生などで、出荷量や果実品質への多少の影響があるものの、出荷目揃え会では各生産者へ家庭選果の徹底を呼びかけ、選果場においても品質を落とさぬよう選果の徹底に努めており、高品質な柿の出荷に取り組んでいる。

10月下旬には、11月から始まる主力品種「富有柿」の出荷目揃え会も各地区で開催され、農業普及課では、収穫作業や栽培管理の注意点等の情報提供を行い、高品質果実の出荷に向けた支援を行っている。  
(園芸産地支援第二係・鷺見彩子、西垣 孝)



【選果場での出荷打合せ】

## 住みよい農村づくり

### ■水稻 稲刈り体験支援

羽島体験プロジェクト実行委員会では、10月14日、羽島市桑原町において、21回目となる稲刈り体験イベントを開催し、約120名の親子が参加し、6月10日に田植え体験し、アイガモ稲作により栽培した「ハツシモ」の収穫を楽しんだ。

農業普及課からは、「ハツシモ」の品種特性、アイガモ稲作の紹介、手刈りの方法等について説明を行った。稲刈り体験は、ここ3年は天候不順により実施されず、4年ぶりの開催となったが、参加者は自らが手植えした「ハツシモ」を慣れた手つきで刈り取っていた。

農業普及課では、イベントを通じた羽島市農業のPR・理解向上に向け、今後も関係機関と連携して支援を継続する。  
(地域支援第二係・今井啓司)



【「ハツシモ」の説明風景】

### ■アスパラガス 特別支援学校児童収穫体験支援

10月15日に、JAぎふ羽島市アスパラガス部会長のハウスにおいて、市内の特別支援学校の授業の一環として、児童8名による、アスパラガスの収穫体験が行われた。部会長から、アスパラガス栽培の概要等について説明があり、児童は真剣に耳を傾けていた。

農業普及課からは、収穫時の注意点やおいしいアスパラガスの見分け方について説明した。今後も、部会の食育活動や消費拡大に向けた取り組みについて支援していく。



【収穫体験の様子】  
(園芸産地支援第一係・山田雅幸)